

## 会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	令和4年度第2回近江八幡市社会教育委員・公民館運営審議会委員の会議		
開催日時	令和4年12月23日（金） 13:30～15:30		
開催場所	近江八幡市文化会館 2階 会議室2		
出席者 会長◎ 副会長○	<p>&lt;社会教育委員&gt;</p> <p>◎大橋委員 ○中江委員 楠亀委員 蒲生委員 小川委員          深谷委員 山田委員 松本委員 吉井委員 中野委員          三木委員 重野委員 綿貫委員 高橋委員</p> <p>&lt;説明者・事務局&gt;</p> <p>生涯学習課 東課長 西嶋主任主事 田中主事</p>		
次回開催予定日	令和5年3月		
問い合わせ先	所属名・担当者名： 近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課 田中 電話番号：0748-36-5533 Fax番号：0748-36-5565 メールアドレス： <a href="mailto:045000@city.omihachiman.lg.jp">045000@city.omihachiman.lg.jp</a>		
会議記録	発言記録・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">要 約</span>	要約した理由	内容が整理され、記録として残すことに適しているため

事務局	1. 開会 (1) 挨拶 (2) 自己紹介
	委員長挨拶
事務局	会議出席者の報告
事務局	↓ 議事交代(委員長による議事進行)
委員長	2. 報告・協議事項 (1) 部会からの報告「まちづくり事業と社会教育」部会
副委員長	令和4年11月22日部会開催。生涯学習を進めていくうえで中高年の方々のご協力が不可欠。自身の現状や理想について意見交換を行ったことを報告。
委員長	説明について、意見・質問を求める。
事務局	役員が固定化されている。不安を周りの人にどう軽減できれば良いのかという意見も出ていた。
副委員長	定年の年齢が引き上げられていることもあり、40～60代の方は仕事で忙しい。その方々が社会教育活動や地域コミュニティに参加していただける方策について考えていただきたい。
委員	今までの老人会などは入る方が少なく困っている現状も聞く。これから続けていくのであれば、組織として残したいことは何なのか。次の世代に残していきたいことは何なのか。を考える必要がある。すべて継続していくのは限界がある。 若い世代は情報検索能力が高い。関心を持っていることは自分で探すことができるので、共感する気持ちはある。我々の活動をアピールして行って、楽しい、意義があるという形をアピールするのが良いと思う。 過去に民生委員を務めていたが、東尋坊の自殺率について、大学の先生の調査の話聞く機会があり、ある大学の先生の自殺についての調査報告の話聞いた。 海に面している隣接した2つの町で年間の自殺者の数が1桁と40ほどの大きな差があった。同じような環境で大きな違いは何かと調べたところ、その一つに老人会・サークル・PTAなどの加入率が高いところが多く、低いところが少ないという結果だったということ。こうしなくちゃいけない、残さなくてはいけないという思いに縛られるのではなく、楽しいという思いでできるときにやってもらうというのがよいのではないかと最近考えるようになった。
委員長	長浜市の社会教育基本方針策定時に市民にアンケートを実施した。どういう年代層がどういった悩みを持っているのか、どのような課題を抱えているのか、具体的に見えてきた。市民がどのへんで課題を抱えているのか、把握することが基本かなと思う。そこから課題も見えてくる。行政でできる事、社会教育会議でできる事、情報を持つことによって、議論が深まるのではないかなと思う。長浜市、これからパブリックコメントをまとめて施行。必要があれば、長浜市に資料を取り寄せてもらって参考にしてもらおうと良い。市民がどんな思いを持っているのか、共通認識があるのかなと思う。 文化活動において、コミセン、文化ホールなどの施設も知らない、行ったことがないという回答が非常に多かった。コミセン4割程度が使っていない、場所も知らないという回答。文化施設があってももったいない。我々の常識と乖離がある。近

副委員長	<p>江八幡市についてもよく似た状況だと思う。地域活動の拠点はコミセン。場所も知らない、使ったこともないという状況ではなく、文化活動をする手立てが必要ではないか。</p> <p>金田学区16,000人ほどの人口であるが、自治会組織のないところが多い。6,800世帯の内4,000世帯近くしか自治会に入っていない。無差別にアンケートを取ったらコミセンの存在を知らない、コミセンとはどんなところなのかというような回答がかなり多いと思う。</p>
委員長	<p>組織単位での連携が取れていない。組織の連携をとるため、あるいは市民とのつながりをつくるために中間支援組織を立ち上げるという方法もあるが、なかなか機能していない。そこが中心となると情報が集まる・共有するという大事な役割を担うことができる。</p>
副委員長	<p>各役員さんが一生懸命来ていただいているが、同じ日に重なったりする。生涯学習拠点を一つ設けて、そこに行けば市内の全ての情報が手に入るという形になると良い。現状近江八幡市には無いので。社会教育は教育委員会だけが担うものではないので、過去の中央公民館構想のようなものがあると思う。</p>
委員	<p>ブラジルから近江八幡～東近江近辺に来ている方も多いと思うが、きっかけがあって教会をのぞきに行ったことがある。非常に熱心なキリスト教の講話、音楽を奏でる、そこに行くときすごい熱気を感じた。宗教の信仰を勧めるわけではないが、日本は宗教的に冷めている。その社会の中で一つのことを熱心に届け続けるということがいるのではないかと思うようになった。</p> <p>安土町の活動について、今年はやめようと思いつつも毎回開くと4～50人市内外から来てくださる。このことを考えてみると、懲りずにずっとやり続けるということが大切だと思う。安土コミセンに行くといろんなグループのチラシであふれている。一貫して継続するという団体が一体どれほどあるのだろうか。安土のある団体は、一貫して毎月毎月催しを主催し続けている。コロナ禍ではあるが、人が集まっている。外国人の接点づくりをずっとやっておられる。我々は改めてそれを考え直さないといけないのではないか。軸になる何かをずっとやり続ける。ある団体は毎回やることはちがうが、一つの筋が見えてくる。私たちにも響いてくる。最近このことを忘れていないか。</p> <p>ある教会でその空気を感じた。的を絞って、生涯学習課が中心となって、これをやりつづけるという、そんなことを一度考えてもいいんじゃないかと思った。</p> <p>(2) コロナ禍における活動報告について</p>
事務局	<p>「コロナ禍における活動報告」説明</p>
委員	<p>市内の中学校で協働活動推進員として活動している。各校園において、地域の実情に応じた活動をしているが、私たち社会教育委員も他の学校がどういう活動をしているのか、知ることで見えてくることもあると思うので、協働本部事業の活動報告を読んでみてはいかがでしょうか。提案させていただきたい。</p>
委員	<p>区切りの時にこんなことがどこで行われた、何人ぐらい集まった、どんな層の方々が、ということが分かれば、部会の活動にも役立つのではと思う。計画した人が集まらないということも起こりえるので、皆さんに見ていただいたらいいのではないかと思う。</p> <p>各学校のボランティア活動の報告等を生涯学習課として取り組まれたことだけでも報告していただければと思う。</p>
委員	<p>放課後子ども事業8つの小学校で実施とあるが、地域で実施した場合に課題があ</p>

	<p>と思うが、どういった課題があるのか、その課題をクリアした上で実施されていると思うが、参考になる課題があれば、教えてほしい。馬淵小の学校運営協議会委員を務めており、この話も聞いているが、なかなか課題があって馬淵では進んでいない状況なので、参考になることがあれば教えてほしい。</p>
副委員長	<p>金田コミセン寺子屋金田という名前で放課後子ども事業実施している。一度見ていただければ。</p>
委員	<p>放課後、子どもたちがコミセンに来る。終わったら帰るという流れになるが、実施場所が学校ではないので、地域としてはどうすればよいかというような課題がある。</p>
事務局	<p>放課後子ども教室の課題について下校時刻が遅くなるため、保護者の迎えが必要になる。小規模の小学校では教室に参加する子とそのまま帰る子に分かれ下校時に一人になってしまう子どもが出る。期間を決めて開催する学校が多く、国が目指す共働き家庭等の小1の壁の打破、放課後児童クラブ待機児童の解消にはつながらない。実施回数を増やすための予算と人員確保が難しい。国は学校の空き教室の利用を推奨しているが、空き教室がある学校が少なく管理や責任の点などから学校での実施が難しい。本市ではコミュニティセンターにおける子ども体験活動が積極的に行われており、子どもたちの地域での居場所が確保されているため、学校ニーズが低いといった課題がある。</p>
委員	<p>今言われているような課題はある地域にもあるが、放課後子ども教室には学校が関与せず、地域に責任の所在があるところがあり、なかなかうまくいかない。また良い方法があれば教えてほしい。</p>
委員	<p>以前にも話をさせていただいたかと思うが、学校教育がメインの形で協議されている傾向にあるが、この会議は社会教育委員会。高齢者は老人会、子どもは子ども会がある。中間層を何とかしようということで、課題に上がったことがない。社会教育というのは、学校教育などの何のジャンルにも属さない人々の悩みを解決するという本来の社会教育が何も解決されていない。社会教育とはいったい何をするんだというところを事務局でも考えていただいて、この場で実りのある議論をしていただく必要があると思うのだが、いかがだろうか。数年前にも意見したが、全く改善されていない。私の考えている社会教育委員会は、老人に関することは老人会、子どものことは子ども会に任せたいと思っている。組織に属していない人に何が出来るかを考えるのが社会教育委員会議だと思う。事務局の考えている社会教育委員への期待度、あるいは社会教育委員として何をすべきかを改めて考えてほしい。</p>
副委員長	<p>まちづくりと社会教育の部会で、委員の方の意見に対する回答は出ていないが、家にいらっしゃる方やフリーの方が地域活動に参画してもらうにはどうすればいいのかなということで課題などの洗い出しを行った。1回の開催だけでは時間が足りなかったが、また部会で解決に向けて持続的に社会教育活動に関わってもらうにはどのようにしたらよいか、提案はできると思うので、今ご指摘があったことを踏まえて進めていったらよいのではないかなと思う。</p>
委員	<p>社会教育委員会のテーマとして中間層を取り上げていただきたい。</p>
副委員長	<p>部会でも中間層を取り上げている。子育て世代以降の方に社会をつないでいくために今は70歳ごろが定年になって来たので状況を変えなければいけないのかなと思う。 最終的に議論や答申が出せればいいのかと思う。</p>
委員長	<p>全体会議で議論するには議題として大きいかなと思う。部会制を提案したのは社</p>

委員	<p>会教育は学校教育と地域活動とそれぞれの分野があるのでそれぞれで議論いただくのが良いため。</p> <p>両方交えて議論していただく、情報共有していただくというのが本来の形かと思う。</p> <p>これをもう少し深めていくには、この資料は材料としては少し不足があるかもしれないが、部会で活動いただいて、方向性ができるとよい。</p> <p>社会教育は二つに分かれていて、両輪で結んでいくということを押さえていただきたいと思う。全体で議論するには大きい。それぞれの部会で詰めていただいたあとに、全体会議で共有していただけたらいいと思います。</p> <p>学校教育に関することは学校教育課。高齢者に関することは老人会。子どもに関することは子ども会など。何にもタッチしないような中間層に対しての支援が必要なのではないか。仕事をしている方が、休みの日に生き活きしてもらえるようなものがあってもいいんじゃないかなと思う。町の中の方向付けをするのが社会教育委員会なのではないかなと思っている。中間層に目を当てて議論するのが本来の社会教育委員ではないのか。考えていただきたい。サークルや地域活動に入っていない人はずっと家にいる状態である。このような人に目を向けるべきではないか。</p>
委員	<p>世の中で学ぶことは多々あるかと思うが、まちづくりと社会教育部会の会議の報告を聞いて思うのは、趣味や歴史を学ぶとか、何だとかいうのを社会教育というところを思い浮かべてサークルを作って勉強などそういった色彩が強かったと思う。社会教育とは何かということ考えたときに自分のなかでは思いつかない。</p> <p>報道等から知る水難事故等から気づくことがある。大雨が降っても、身の危険よりもまず、濡れることの回避を考える。</p> <p>最近マスコミなどでは、豪雨の際に危険を予測して行動するよう繰り返し伝えていますが、それを多くの人々が真摯に受け止めているか疑問が残る。</p> <p>自然災害や防災意識といったことを学ぶ機会も必要なのかと思う。</p> <p>趣味でウールを固めて衣服や小物を作るのを教えているが、過去の公民館活動では主体だったが、今の時代はそのことに我々が真剣に力を注がなければならないのか。今緊急でしなければならないのは温暖化が進んで大転換をするという提言をしてこそ社会教育委員会ではないかと思う。柱の一つとしてこういうことをやってはどうかという提言をして、社会教育のきっかけとして行きたいと思う。</p>
委員	<p>委員の意見は解決していない。人事異動で担当が変わったということで、年度替わりで引継ぎはされているかもしれないが、話をされただけかもしれない。継続するだけでなく打開して何とかしようとして持って行ってほしい。そうすることで少しだけでも解決策につながるのではないかと思う。またこの場でうやむやに終わってしまう。事務局もこういった意見があったというだけで終わりになるのではないかと聞いていて思った。</p> <p>自分は、小学生低学年から社会人まで接する活動をしている。子どもたちにバレエを教えているが、小学生と関わる中で、年は離れているが、対等に接してくれる。元気ももらっている。まだまだ元気な子もいるなど思う。今は本当に言葉を選ばないといけない時代だが、すてきだなと思う子どももいる反面、引きこもり等、社会情勢の課題も多いし、大変だと思うが、みんな前向きで明るい気持ちで毎日を送らなければいけないなど思う。</p>
委員	<p>学校は今日で2学期終わり。スクールガードを務めているが、今日、子どもたちが、おっちゃんいつもありがとう、いい年迎えてね、と言ってきて、大変感動した。生きがいになって辞められない。こういった感動をもっと多くの人たちに分けてあげたいが、やる人が少ない。こういったことを多くの人に知ってもらいたいというのも、そういうことを一つの社会教育委員の在り方かなと思う。</p>
委員	<p>社会教育の対象年齢 高校～60歳の間のことをイメージできるものがあるといいのではということかと思うが、この世代はみんな忙しい。なにかこの人たちに対</p>

	<p>してどういことをやったら集まるかというのではなくて、おしゃべりサロンといったものがあれば、何かが起こるのではないかと思う。おやじ連の活動も、出発点は料理講座からなので、子どもや孫を連れて、折り紙など何か一つをテーマにして、しゃべってもら活動をしてみるとよいのかなと思う。</p> <p>中間層は何かしら用事がある。そういう活動からしないと人が集まらないのかなと思う。</p>
委員	<p>地球温暖化などの話、そういったものを新たに取り上げて、ぜひやりましょうという方策を決めてもらったかどうかと思う。大事な事なので、これから掘り下げて考えていってもらったかどうか。</p>
委員	<p>老人会の人たちは良いが、新興住宅地の人たちは集まる場がない。公民館に足を運ぶしかないが、足がない。こういった方々に情報提供するという意味合いで発言をした。ちょっと考えてみてはどうかという思いがあった。</p>
委員	<p>以前に地図を用いてどこが危ない、どこが楽しい？というようなことをチェックしていく活動をしていたことがあるが、こういった活動を試してみてもよいかもしれない。</p>
委員	<p>世の中にこれから必要なのは、想起させることを流し続けるという切り口があって、男の料理教室に参加してみようかなということ。</p> <p>いつ芽が出るかは分からない種をまき続ける。そのようなことを我々は考えていかなければならないかと思う。チラシは溢れているが、事前に種をまいておく。そのような仕掛けを提案して考えていく必要があるし、そのような方向に行きませんか、ということを変更して提案する。</p>
委員	<p>私自身はもうそろそろやめたらいいかなと思ってきているが、私自身がもし社会教育でやれるテーマをもっていたら、それを議論していったらいいかなと思う。</p> <p>委員がイメージする社会教育のテーマをとっかかりにしたらどうでしょうか。集まらなくても、各家庭にばらまいてもいい。それぞれの社会教育委員が挙げてみるというのも次回の宿題という形に一度してみたらよいかもしれない。</p>
委員	<p>これまで男の料理教室を250回もしているが、家では料理は一回もしていない。しかし、奥さんを大事にしないといけないな、という風に強く思うようになった。</p>
委員	<p>男の料理教室のように、人が集って、とっかかりになるようなことがあれば。</p>
委員	<p>やらされる、というのがダメ。</p>
委員	<p>過去に、山の方の集落に全体の地図をもって、自分が自慢したいところ、危ない所などを地図の上にマークしてもらった。たくさん出たことをテーマに共通点を探したりして考えたことがある。</p> <p>近江八幡市も旧から新まで色々なところがあるが、身の回りの話など何かのきっかけがあれば色々なところに広がるのかなと思う。</p>
委員長	<p>社会教育の持ち方につきましては、色々ご意見いただいたが、そのようなことを勘案いたしまして、事務局と共に、方向性を考えていきたいと思う。</p>
事務局	<p>(3) 令和5年度東近江地域社会教育委員連絡会について</p> <p>令和5年度東近江地域社会教育委員連絡会について説明。</p> <p>説明について、意見・質問を求める。</p>

委員長	テーマを決めるのではなくて、意見をもらうということですか。
事務局	その通り。
委員長	書面でお送りいただくという形でもよろしいか。
委員	東近江地域に入っている自治体は。
事務局	東近江市、竜王町、日野町、近江八幡市。
委員	委員長・副委員長・事務局で相談されたらいかがでしょうか。
事務局	そういった方向性で進めていきます。
	3. 連絡事項について
	連絡事項について説明。
	説明について、意見・質問を求める。→意見なし
	4. 閉会
	副委員長挨拶